

## 【第4回環境審議会の詳細】

日時 平成29年3月6日（月）13：30～15：40

場所 ニセコ町民センター・研修室1

出席 本間泰則委員長、新谷志織副委員長、柴田真年委員、黒滝博委員、阿部武吉委員、牧野雅之委員、葛西奈津子委員、中川明委員

片山町長（途中退席）、山本課長、桜井係長、大野主任

欠席 チャーチル真知子委員、猪狩和大委員

### 主な内容

平成28年度11月～3月に行った環境に関する主な取組

域内経済好循環モデルの構築

今年度委託事業「第2次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」

今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」

環境モデル都市アクションプランの見直し

平成29年度の主な取組予定

## 1 開会

片山町長あいさつ。昨日ニセコルールについてのテレビ放映があった。反響が大きいと聞いている。再放送があると思うのでぜひ見てほしい。住民との懇談会を行うと、移住された方にニセコ町の環境の取組の歴史を伝え切れていないと感じる。過去には天ぷら油を回収してニセコバスで使用したり、グリーンアースニセコで廃食油石けんを作ったり、景観条例を作るときにも住民とかなり議論した。住民や事業者のみなさんに環境政策に共感してもらい、一緒にまちづくりを進めていきたいと考えている。

## 2 報告事項

- ・平成28年度11月～3月に行った環境に関する主な取組（資料1）

資料1について、事務局より説明を行った。

### 【質疑・意見等】

- ・4月から1月で、昨年度のほくでんと比較した新電力の電力購入量とCO2排出量の表をみると有島記念館がかなり増えている。考えられる原因はなにか。  
→灯油の冷暖房機が壊れてしまい、電気のアエアコンに変えた。灯油の冷暖房機は現在販売されていない。記念館では精力的にイベントを開催したり、コーヒー店が入ったりして利用人数も増えている。
- ・灯油の使用量は減っているのか。  
→灯油使用量も増えている。
- ・有島記念館は地中熱ヒートポンプを利用しているのではないか。  
→有島記念館は3施設に分かれており、地中熱ヒートポンプが入っているのは元々ある記念館部分。アートギャラリーとカルチャーセンターはアエアコンを使用している。
- ・大きな施設はデマンド監視装置をつけると有効。30分以内にデマンド値を落とせばいい。ブザーが鳴るだけのものならリース料3,000円/月くらい。ブザーだけでなく自動的に電気を落としていくタイプだと6,000円/月くらい。コンピューター管理も可能。デマンド値が上がるとそのときから1年間の電力料金の基本料金に反映されてしまうので、電気代への影響が非常に大きい。
- ・ヒルトンではデマンド監視装置によって3段階で電気を落としていく仕組みになっている。
- ・配管などの清掃をしていないのかもしれない。チェック項目はいくつかあるので、確認したほうが

いい。

- ・王子伊藤忠エネクスに替えた10施設のほとんどの電力使用量が増えている。管理者に集まってもらって電力の使用方法や節電について議論する場はあるのか。
  - 課長会議はあるが、そういった場はない。
  - この削減できた分を原資にした循環予算を来年度から活用する。来年度はこの予算を使って町民向けエコポイント制度と各地区のコミュニティセンターの冷蔵庫を新しい省エネタイプのものに入れ替える予定。
- ・コスト削減だけでなくCO2削減にもなることが大きい。他の施設に広げていくことはできないのか。
  - 王子伊藤忠エネクスは高圧契約の施設しか契約できない。
- ・この数値を裏づけに、施設の当事者がエネルギーの管理体制を作り上げるきっかけにしてほしい。

### 3 審議事項

- (1) 「域内経済好循環モデル」の構築(資料2)
- (2) 今年度委託事業「第2次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」(資料3)
- (3) 今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」(資料4)
- (4) 環境モデル都市アクションプランの見直し(資料5)

資料2について、事務局より説明を行った。

- ・投資回収が15~20年というのは民間では不可能。
- ・LED照明は電気代削減のほか長寿命なので、電球交換をしなくてもいいというメリットがある。考慮しないのは片手落ちではないか。
- ・地中熱ヒートポンプは地中の熱を利用するので無料のエネルギーを使うということだと理解するが、なぜLEDは電力を外部から購入するのにこの数値になるのか。
- ・LEDは電力料金が減るが、工事のお金が地元業者に支払われ、お金が地域でどれだけ循環するという事。
- ・経済分析は非常に難しい。電気料金の流出が削減されたとしても、地域の金融機関を使っているのかや工事会社の本社がどこにあるのか、なども考慮しないとイケない。ここでは工事費だけで分析したらこういう結果になったということ。どの局面でとらえるのか、どの範囲でどのような分析をするのかで評価は大きく変わる。
  - 今まで行政ではGDPという概念でモノを考えてこなかったが、ようやく少しこのような考え方をするようになったと理解してもらいたい。数値についてはさらに精査が必要。
- ・新しく公共施設を作るときに地中熱ヒートポンプにするのか重油ボイラにするのかなど、検討するときの資料として活用できる。
- ・LEDは電気代削減で投資も回収できてCO2も削減できるので取り組むほうがいいのは明確。
- ・議論しているよりも先にこの部屋の電気を消して、節電したほうがいい。

当日配布資料3について、事務局、委託先のコミュニティ研究所の梅田氏より説明を行った。

- 物語の部分は前回の審議会から、イトウとアイヌそれぞれの専門家の方にみてもらい、いくつか修正を行った。また絵を入れた。イトウなどの生物と水の流れの2パターン。挿絵ではなく絵として入れる。文章と絵は、互いに説明しあう関係ではなく、独立した表現でありながら、物語の深いところで繋がってる。そのことの示唆も、付記した。
- ・この物語は最終的にどのように活用されるのか。
  - 媒体については今後検討する。絵はホームページではカラーで見れる状態だが、冊子として配布

するときにはすべてモノクロで印刷する。来年度概要版を作成するのでその際の表紙にするなどのアイデアはある。

→絵は地域おこし協力隊の奥村頼子さんに描いてもらった。

・配布の方法はどうするのか。

→議員・環境審議会委員には印刷した報告書、住民には広報と一緒に概要版を全戸配布する。物語は例えば広報に連載、ラジオニセコで朗読などを考えている。

・広報は町内会に入っている人だけへの配布で全戸に配布されていない。

→住民にどのように配布するのかは考えさせてほしい。

・この資料に修正加筆の要望がある場合は、どうすればいいのか。

→今週金曜日までに事務局に連絡をほしい。

資料４・５について、事務局より説明を行った。

・２０５０年度までに１９９０年度比で８６％削減するというのは環境モデル都市として国の目標に沿ったものではなく、町独自の目標なのか。

→町独自の目標。環境モデル都市になっているほかの自治体と比べてもニセコ町は非常に野心的な目標を掲げている。

・しかし、現実が増えてきている。かなり本気でやらないと達成できない。アクションプランの見直しでも２０１８年度までの数値が後退している。２０５０年度までの数値でみると地熱発電による数値が大きい。事業化に向けて進めていくことが重要。

・ヒルトンは第一種エネルギー管理指定工場等に指定されており、エネルギー消費原単位を年平均１％以上削減しなければいけないが、過去５年間達成できなかった。少しでも無駄を減らして省エネを進めたが難しかった。この目標達成は大変厳しいと思う。

→投資が進んでいるニセコで本当に可能なのか、という疑問をもたれると思う。今回、北海道環境財団の協力で積み上げで年間のＣＯ２排出量を算出できるようにした。８６％という目標を変えないでいきたいと考えている。１つの方法として、新電力は大きな可能性があると考えている。また、北海道経済産業局との連携で観光事業者向けの勉強会を開催して、だんだん観光事業者の理解も進んできた。

・新電力といっても送電線には様々な電力が混じっている。水力や地熱だけの電気とはいえないのではないか。国に認めてもらえるのか。

→契約だけの世界なので確かにそうだが、町の考え方として町内の水力や地熱からの購入分をカウントする考えでいる。

・どんどん新しいホテルが建つという話があったが、環境に配慮したホテルだけを誘致するなどできないのか。

→そこまでの規制はできないが、環境クオリティ制度で環境に配慮したホテルを評価する仕組みを考えている。集合住宅に関しては、これから環境に配慮するため一定の基準を作る予定。

・条例を制定するのはお金がかからない。町として環境に配慮することを求める条例を制定できないか。

・条例を作るのであれば今、新しいホテルの話がいくつかあるので、早く制定したほうがいい。今は後志総合振興局に許可を得られれば建てられるようになっている。

## ４ その他

### (１) 平成２９年度の主な取組予定

配布資料について、事務局より説明を行った。

・エネルギー構造高度化・転換理解促進事業の申請はいつまでに行うのか。

- 1次は3/9なので間に合わない。2次が5月頃にあるのではないかと考えている。その場合6月に内諾で交付申請、7月に交付決定、入札等を経て8月頃から事業開始のスケジュール予定。
- ・対象が原発から30km圏内の自治体ということは、この事業を活用することが原発を認めることにならないか。
    - この事業はあくまでもエネルギー転換の理解促進であって、原発は関係ない。
    - 国は原発推進の方向。原発に関しては様々な意見があると思うが、財政が厳しい町としては10/10の補助率で再エネを進められるのであればぜひ活用したいと考えている。「したたかさ」を持つことも重要だと考えている。
  - ・説明の趣旨は理解したが、納得できない。ニセコ町の原発に対する姿勢も、最近トーンダウンしている。このような補助金を使うのであれば、原発に反対する態度を明確にすべきだ。また、環境審議会としては原発に関して核のごみは最も大きな環境破壊になることから、議論すべきだ。
    - 町としてエネルギー自立して、原発がなくてもやっていけることを示すことが重要だと考えている。
  - ・例えていうと、ものすごく環境破壊している大企業が一部のオラウータンを守るためのお金を寄付するというので、その寄付金を使うイメージ。
  - ・環境審議会はCO2削減のことを審議する場であって原発のことまで広げると大きくなりすぎて、趣旨にあわない。
  - ・1次と2次の環境基本計画策定の両方に参加している。2次のときも原発の議論は出たが、様々な意見があるということで、お蔵入りになった。2次ではクリーンエネルギーのことももちろんだが、水環境や自然環境についても審議した。原発問題が環境審議会として趣旨に合わないことはない。
  - ・原発の議論をすると時間がかかる。先週地熱の視察で鳴子にいったが、ホテルのごみをバイオガス化したり、温泉排湯を活用して乾燥野菜を作ったりしていた。観光客は減ったが視察客が増えている。

## (2) その他

- ・綺羅乃湯のボイラについて、木質バイオマス・RDF含めて来年度も引き続き検討していく。
- ・審議委員の任期が今年の5月で終わる。基本再任をお願いしたい。日程がきたら個別に相談する。

## 5 閉会